
あいとかけ

夕焼け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あいとかげ

【Nコード】

N76410

【作者名】

夕焼け

【あらすじ】

今日も愛をさがしにいくよ。

光は毒だ。

とてもまぶしくて、見つめると心がざわざわする。

はるか高みにあるソレが放つ光は、いつだって僕を悲しい気持ちにさせる。

だって、どれだけ手をのばしてもとどかないんだもん。

それはいつだって手のとどかないところで、傲慢な輝きを無遠慮にキラキラ放ってる。

そついうのを見るとすごく気持ちがざわざわする。

悲しい気持ちになる。

だからそんなの本当は見たくないんだ。

でも見ちゃうんだよ。

目が勝手にそつちを向いちゃうんだ。

でね、僕が話したいのは影についてなんだ。

眼球に圧迫を感じるほどの鮮烈な光を直視するとね、僕は影が見える。

まぶたの裏か、網膜の裏か、分からないけどとにかくそれは突如発生するんだよ。

その影は紛れもなく僕の内側で発生するんだ。
本当だよ。

その影を希望と呼ぶか、絶望と呼ぶかは人によって分かれるだろうね。

希望は手がとどかないから希望なんだ。

手がとどいちゃったならそれは希望じゃなくて、ただ目の前に顕現した一つの現実的事象になる。

「起こった出来事」に、希望の冠は要らない。

だから希望は必ず手のとどかないところに無きや駄目なんだ。でも、手のとどかない希望なんてのは、絶望と同義語だよ。だって、それはそこに「ある」だけで触れられないんだから。

僕の希望を言おうか？

そうだな。

簡単に言えば、僕と近い魂を持った誰かに会いたい。

そんなのいないって事は分かってるんだ。

本当だよ。

でもね、これは希望の話なんだ。

そして絶望の話でもある。

だから、つまりね、僕と近い魂を持った誰かに会いたいっていうのが僕の希望であり、同時に僕の絶望の理由でもあるっていう事だよ。

光と影。

なぜなのか、きっと理由は探ればそれっぽいのがそれなりに見つかると思う。

でもそんな事はたいした問題じゃないんだ。

僕は男にも女にも猫にも神様にも欲情しない。

本当だよ。

僕があえて欲情する場面があるとすれば、多分自分と同じようなソレに対してって事になると思う。

僕はね、欲情したいんだ。

容器の内側に目一杯詰まったアレをね、全部、一切合切ぶちまけちまいたいんだ。

今まで僕はありとあらゆるものに向かって射精を試みたけど、駄目だった。

出てこないんだよ。

一番出したいソレが出ないんだ。

僕はどこに向かえばいいんだ？

子宮を目指せばいいのか？

戦闘爆撃機よりも安いはした金で買える幸せを目指せばいいのか？

大概の人はそうするだろう。

でも僕は駄目だ。

僕が目指すのは僕自身だ。

僕は、僕自身に向かって、僕の内側にある全てをぶちまけたい。

他の何かにそんな事したら、間違いなく壊れちまうよ。

本当だよ。

今まで何度もそういう事はあったんだ。

幾つもの人や物を壊してきたよ。

まるでキチガイさ。

人によっては、僕が壊すために誰かを蜜の園に誘ってるだなんて言い出す始末さ。

ほんと、勘違いだよ。

本当にイカレてるのはいつだって僕をなじるマトモな奴らさ。

僕はただ、一つの夢を見ていたんだよ。

誰かと本当に繋がれるなんてね。

結果は酷いものだったよ。

随分な人数を相手にしたけど、どいつもこいつも、ほんと嫌になっちゃうよ。

みんな自分から僕に言い寄ってきたくせに、僕の内側を垣間見たらすぐさま尻尾を巻いて逃げ出す始末さ。
ほんと嫌になるよ。

僕は誰の事だって愛してる。

本当だよ。

下手だと思うよ。

上手くないし、利口なやり方じゃないし、全然たいした代物じゃないと思う。

だって僕は「ただ」愛してるだけなんだから。

でもね、僕の下手糞を責める連中はどうだ？

誰が本当の愛の存在を示した？

連中が示すのはいつだって欺瞞と虚飾に満ちた愛「のようなもの」を「うまくやる事」だけさ。

愛が無いんだよ。

愛が無いくせに、愛を抱いてる僕の「下手さ」を連中はいつも責めるのさ。

きつと愛が無いからだ。

だって僕は下手糞なだけで本当に愛してるんだよ。
連中は下手糞ってだけで僕の愛まで否定するんだ。

きつと連中つてば愛のなんたるかも知らないんだよ。

連中がいう愛っていうのは、清く正しく美しいものだけなんだ。そんなのって、どう考えたって全部インチキだよ。

ほんと嫌になるよ。

全部なにもかもインチキなんだ。

くそつたればかりだよ。

でもね、それは別にいいんだ。

それでも僕は誰の事だつて愛してるんだから。

クソツタレばかりなんて言っただけど、その点においては僕も寸部違わないクソツタレだからね。

クソツタレとして、クソつたれな全ての人を愛してる。

ただ、彼らはうまくやる事に執心するばかりで、全然愛を示そうとしないから、僕は彼らに対する興味を失っちゃったんだ。

それだけの事だよ。

僕はただ愛を探してるだけなんだ。

愛は僕にとって、光であり、影でもある。

僕が生きてる理由は愛故にだし、僕がイカレてるっていうなら、それもまた愛故なんだ。

本当だよ。

光しか見たくない人、この世界の都合のいい半分の側面だけしか見たくない人は、きつと僕簡単に壊しちゃうから、どうか近づかないで。

それはとても危険なことだよ。

僕に悪意が全く無くても、あなたが完全防御の体制をとってても、

多分僕が指をくいってやっただけであなたの心は、あなたが思ってるよりずっと簡単に壊れちゃうよ。

誇張じゃなくて経験則だよ。

今まで皆そうだったんだ。

だからどうか、小奇麗に整理された半分の世界だけで生きてる人は近づかないで。

これは愛の無い拒絶じゃなくて、愛してる故の忠告なんだよ。

僕は本当は誰のことも壊したくなんてないんだ。

本当だよ。

ただ、愛を探してるだけなんだ。

本当にそれだけなんだよ。

とどかないものに手を伸ばそうとする全ての人に、最高にインチキな言葉を送るよ。

幸運を祈る。

.

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7641o/>

あいとかげ

2010年11月7日10時26分発行